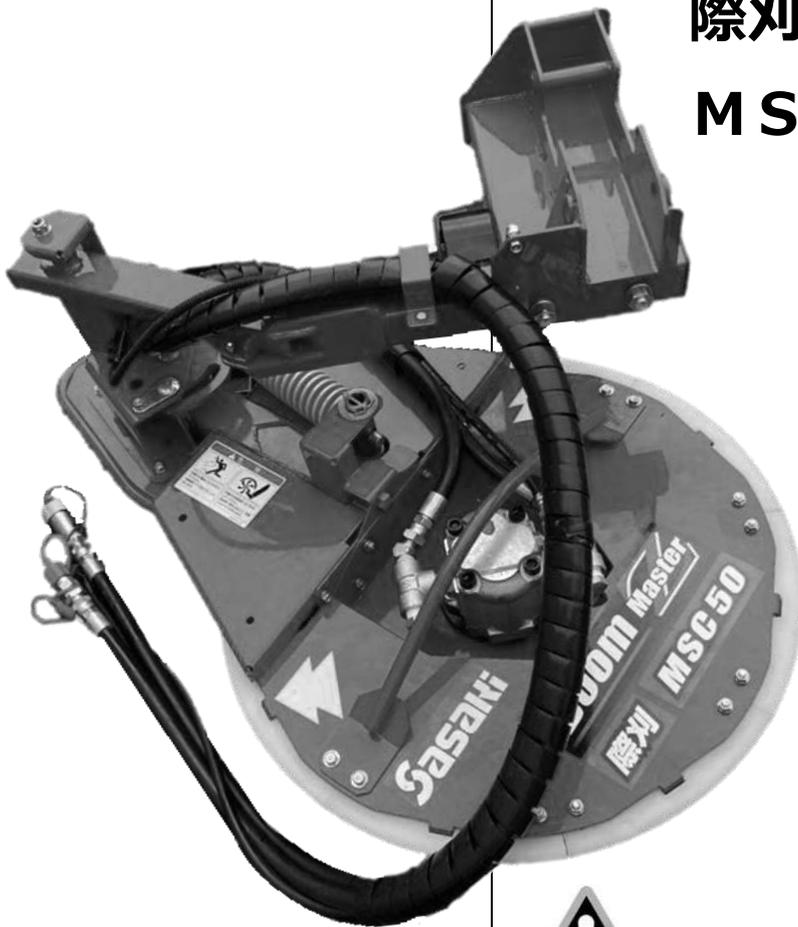




取扱説明書



際刈アタッチ
MSC50



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると事故を引き起こす恐れがあります。ご使用前に必ずお読みください。お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔

目次

はじめに	2
保証とサービスについて	3
保証書について	3
アフターサービスについて	3
補修用部品の供給年限について	3
安全銘板の貼り付け位置	4
各部の名称と、機能・役割	5
各部の名称	5
各機能と役割	6
1. 障害物回避機構	6
2. 作業方向切り替え	6
3. フローティング機能	7
4. セーフティ機構（シャープボルト）	8
5. 流量調整キット【BMZ200DX へ装着時】	8
6. ロールフローティング機能	9
作業前の準備	10
際刈アタッチの着脱	11
装着の仕方	11
取り外し方	12
運転および作業の仕方	13
運転・操作の練習	13
移動の仕方	13
作業の仕方	13
作業上の注意	18
保守管理について	19
ナイフの交換	19
作業シーズン中	19
作業シーズン終了後	19
グリース注油箇所	20
消耗部品一覧	21
トラブルの原因と処置方法	22
主要諸元	25

ササキ商品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- ◎ この取扱説明書は、際刈アタッチの取扱方法と、使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書とあわせて、ブームマスターZ BMZ100DX/200DX 本体の取扱説明書を熟読するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、常に最良の状態でお使いください。
- ◎ 際刈アタッチは、ブームマスターZに装着し、雑草を刈り取るための機械です。その他の目的で使用しないでください。
- ◎ お読みになった後は、必ず製品の近くに保管してください。
- ◎ 本製品を貸与または譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡してください。
- ◎ この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社あるいは当社の特約店・販売店にご注文ください。
- ◎ なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本商品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ◎ ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、または、お近くの特約店・販売店・農協にご相談ください。
- ◎  印付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。



警告

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。



注意

この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものをあらわします。

補足

その他、使用上役にたつ補足説明をあらわします。

- ◎ この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証とサービスについて

保証書について

『保証書』は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。
お読みになった後は、大切に保管してください。

アフターサービスについて

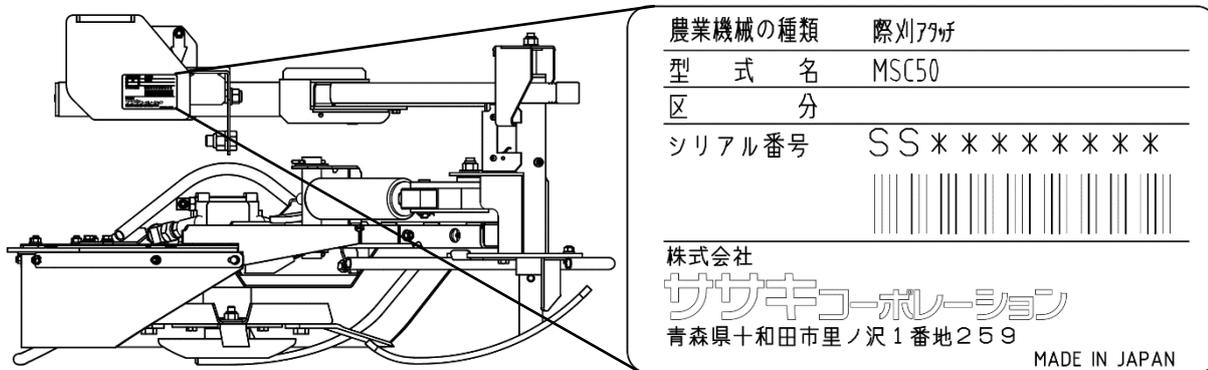
ご使用中の故障やご不審な点など不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店等にご相談ください。

《ご連絡いただきたい内容》

- ◇ 型式名（機体銘板に明記してあります）
- ◇ シリアル番号（機体銘板に明記してあります）
- ◇ ご使用状況は？
（どのような作業をしていたときに？）
- ◇ どのくらい使用しましたか？
（約何アールまたは約何時間使用）
- ◇ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくおしらせください。

フレーム右側側面

機体銘板



補修用部品の供給年限について

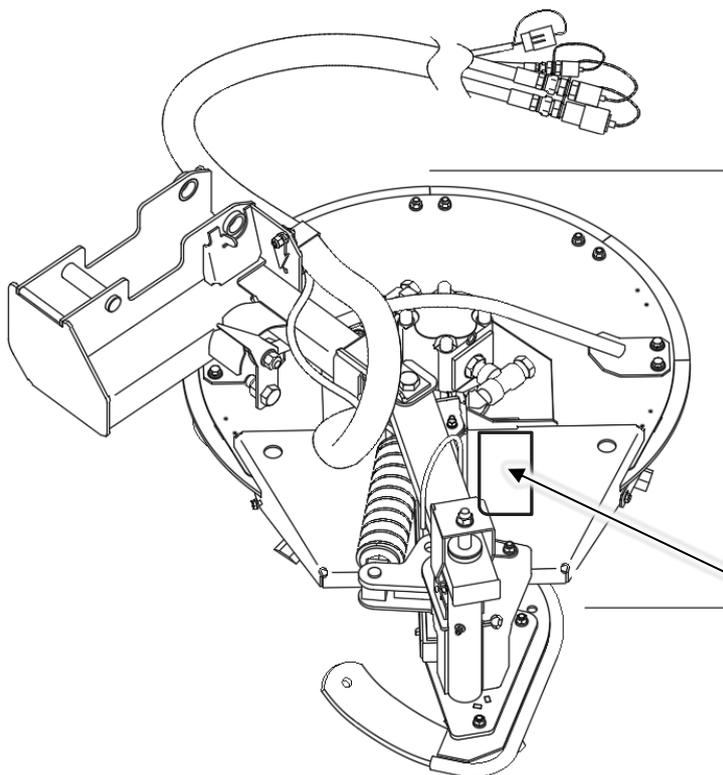
この商品の補修用部品の供給年限は、製造打ち切り後 **9年** です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

安全銘板の貼り付け位置

⚠ 注意

安全銘板が破損したり、はがれたりした場合は、上記番号・名称にて手配のうえ、貼り直してください。
新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。



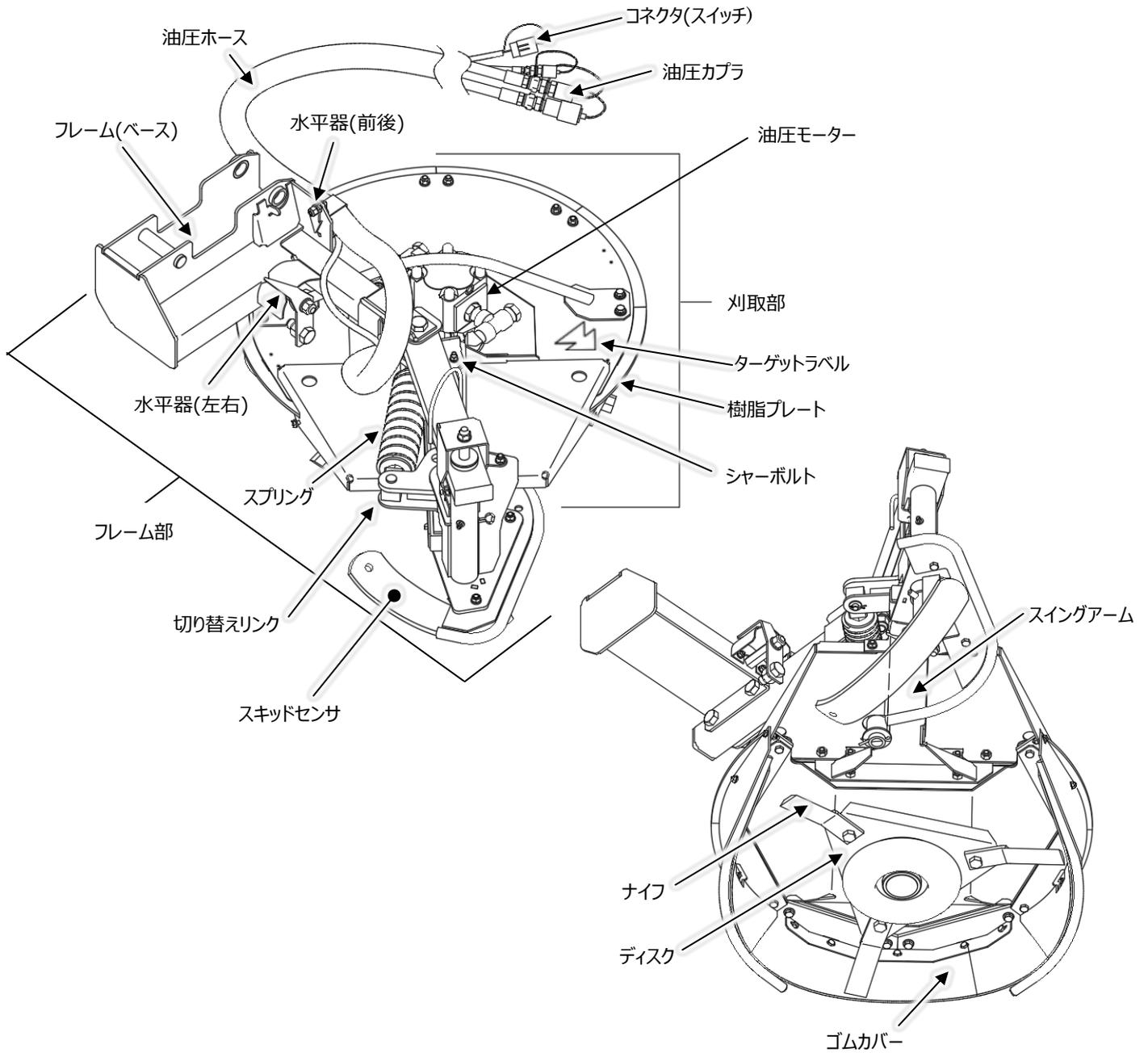
⚠ 危険	
	
作業中は機体に近づかないでください。 飛散物で、ケガをすることがあります。	作業中は回転部に近づかないでください。 回転部に巻き込まれて、死傷するおそれがあります。
0000-04190	

0000-04190

PLラベル (ヒサン、カイト)

各部の名称と、機能・役割

各部の名称



付属品

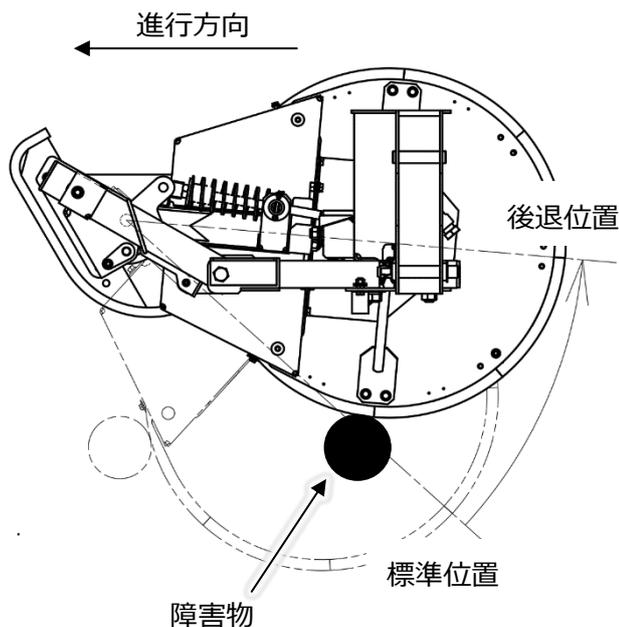
名称	規格	個数	備考
シャーボルトセット	BT7T M6*25...5 個 ナ10 NT M6...5 個 SW M6...5 個 PW M6...10 個	5	予備部品
流量調整キット		1	BMZ200DX へ装着する際使用【P.8 参照】
保証書、納入指導確認書		1	
取扱説明書		1	

各部の名称と、機能・役割

各機能と役割

1. 障害物回避機構

刈取部に障害物（木、ポール、フェンス）が接触すると、刈取部がスイングして回避しながら、障害物の際に沿って草を刈ります。



参考

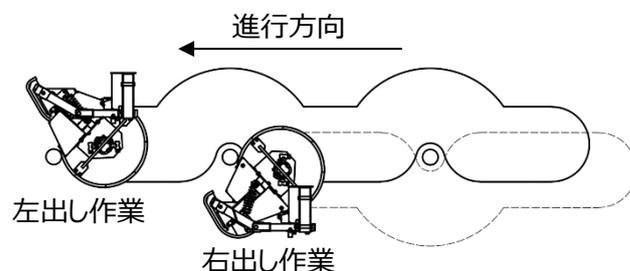
- フレーム部に当たった場合は回避できません。フレーム部へ当たることが予見された場合は、直ちに進路を修正してください。
- 茎の硬い草が密集している箇所でも刈取部が後退することがあります。無理に押し付けず、2度刈等で対応してください。
- 作業前に障害物の状態を確認し、手で押して根元がグラつくような、固定の不十分な物に対しては際刈作業しないでください。

2. 作業方向切り替え

警告

- 切り替え操作をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。
【守らないと】思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 障害物裏側の作業を行う際は、作業前に作業場所を確認し、異物や、進路の妨げになるものがないか確認してください。ある場合は取り除くか、作業をしないでください。

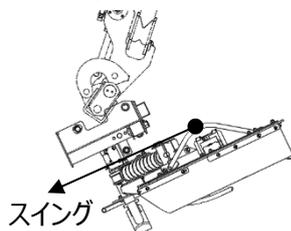
モーターガードを握り、切り替えたい方向へ刈取部をスイングすることで、突き出し方向が左右反転します。「左出し」、「右出し」の2工程でポール等の障害物の周囲を全周刈ることができます。



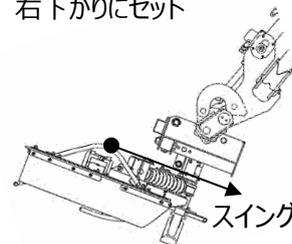
補足

※アタッチを地面から1 m程度上げた状態にし、斜めに傾けてから切り替え作業を行うと、切り替え操作が楽になります。

・左出しに切替える場合
左下がりにセット



・右出しに切替える場合
右下がりにセット



各部の名称と、機能・役割

各機能と役割

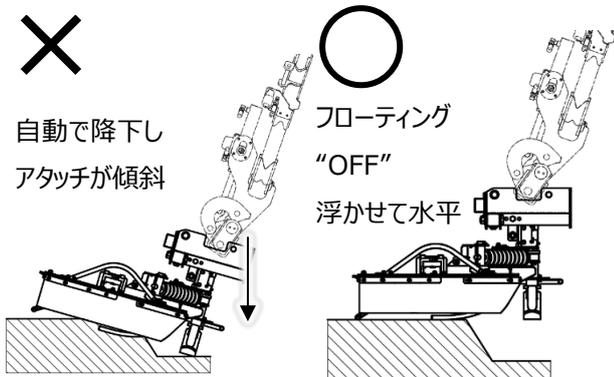
3. フローティング機能

フローティングを“ON”にすることで、地面の凹凸に追従します。地面の凹凸を感知し、アームが自動で上下します。

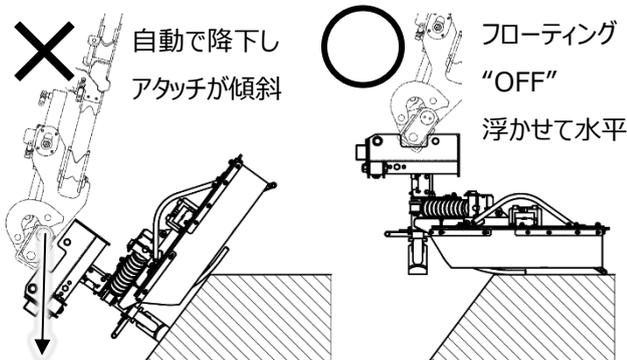
3-1. フローティング機能を使用できない条件

下記のような作業場所での作業をおこなうときは、フローティングを“OFF”し、レバー操作で作業を行ってください。スキッドセンサが作動せず、フローティングが機能しない、または、作業姿勢を維持できない場合があります。

- 地面の起伏、凹凸が極端な場合
- 人の足が3 cm 以上沈むような軟弱地
- スキッドセンサと刈取部接地面の高低差が10 cm 以上の場合



- 路肩外側が法面になっている等、スキッドセンサが接地しない場合



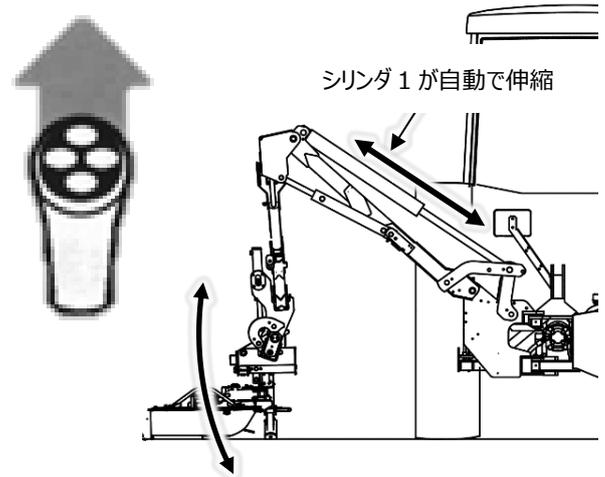
- ガードレール下等、障害物の下の作業
(自動上昇による衝突の恐れがあります)

3-2. 操作手順

1. 地面に際刈アタッチを接地させ、リモコンのフローティングボタンを押してください。



2. レバースイッチを前に1回倒してください。フローティングに切り替わります。



補足

レバー操作のみで、フローティング機能を中断・再開できます。とっさの回避操作が必要なときに有効です。

- フローティングの中断操作
フローティング起動中に、レバースイッチを後に倒すと、再開操作をするまでの間、フローティングをOFFできます。
- フローティングの再開操作
レバースイッチを前に倒す操作で、フローティングが再開します。

各部の名称と、機能・役割

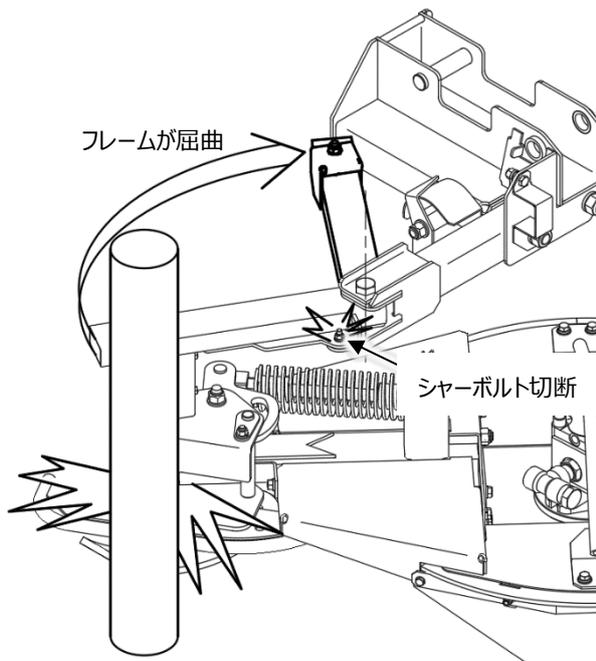
各機能と役割

4. セーフティ機構（シャーボルト）

重要

- シャーボルトが切れたら直ちに停止してください。停止後、アタッチを少し浮かせて、エンジンを止め、フレームを元の位置に戻してから、予備のシャーボルトを締結してください。
(締め付けトルク：1 2 Nm)
- 作業時は必ず、予備のシャーボルトを携帯してください。
- シャーボルトは、必ずササキ純正品をご使用ください。
- 本機能は破損を完全に防ぐことを保障するものではありません。負荷、衝撃の加わる作業は避けてください。

フレーム部に障害物が衝突したときや、スキッドが地面に潜り込んだ等、負荷が加わったときはシャーボルトが切れます。フレームが屈曲することで衝撃を軽減します。



5. 流量調整キット【BMZ200DX へ装着時】

重要

- BMZ200DX へ装着する際は、装着前に必ず流量調整キットを組みつけてください。
【守らないと】流量過多となり、モーターの破損につながります。
- BMZ100DX へ装着する際は流量調整キットを組み付けしないでください。
【守らないと】ディスクの回転数が不足し、刈取できません。
- 部品にゴミ、汚れが付着しないよう注意してください。付着した場合は取り除いてください。
- 組み替えの都度、シールテープを巻きなおしてください。

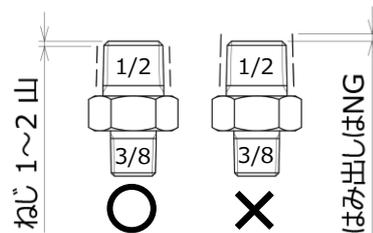
＜シールテープ巻きつけ箇所＞

○オスプラグ

1 / 2 テーパーネジ部

○オスコネクタ、シボリツギテ

1 / 2 テーパーネジ部



- 組み替え作業は、本体から油圧カプラを外して行ってください。
- 取り外した部品は保管してください。

5-1. 流量調整キットの役割

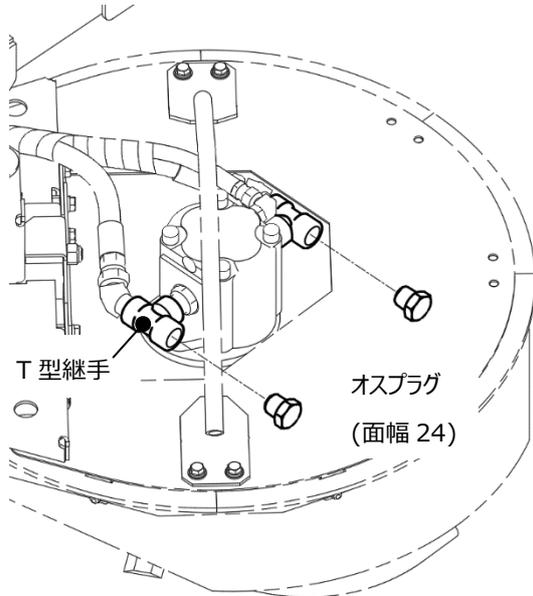
付属の流量調整キットを組みつけることで、モーターに流れる作動油の量を適量へ調整します。

各部の名称と、機能・役割

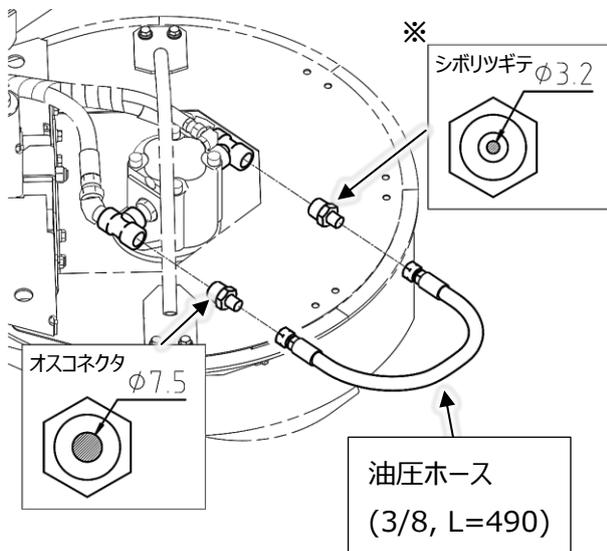
各機能と役割

5-2. 流量調整キットの組み替え手順

1. モーターの左右にある T 型継手からオスプラグを外してください。

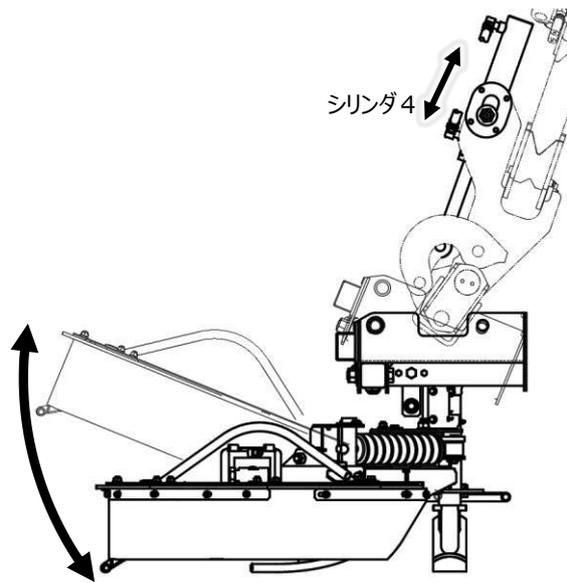


2. モーター左側にオスコネクタ、右側にシボリツギテ、最後にホースを組みつけてください。
※穴径の小さい(φ3.2)方がシボリツギテです。必ずオスコネクタとシボリツギテの穴径を確認し、組み間違いに注意してください。



6. ロールフローティング機能

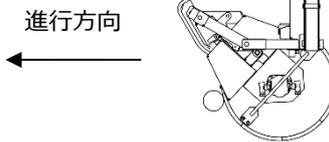
アタッチが左右回転方向に回転し、地面の凹凸による刈取部の突き上げを緩和します。



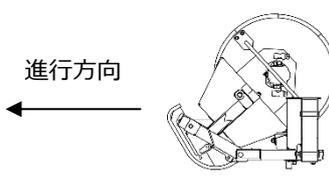
補足

シリンダ 4 を伸縮させ、支点位置を調整して作業を開始してください。

- 左出し作業時は
シリンダ 4 が長穴の下側



- 右出し作業時は
シリンダ 4 が長穴の上側



作業前の準備

警告

- 作業前点検は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。
- 点検・調整作業をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。
【守らないと】 障害事故や機械の損傷を引き起こす恐れがあります。

注意

- 作業中にボルト、ナット、ピン等が外れると、作業機の破損ばかりかトラクタの破損、ケガのおそれがあります。

作業機を安全に、長くご使用いただくために、必ず作業前の点検を行ってください。

1. 各部のボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落がないか、確認してください。緩み・脱落がある場合には、増し締め、組み付けをおこなってください。
特に、シャーボルト、およびナイフの取り付けボルトに緩みがないか確実に確認してください。
2. 各部ヘグリースを注油してください。(P.20 参照)
3. ホース・継手金具の緩みや、油漏れがないか確認し、ある場合は増し締めしてください。
4. 手でスキッドセンサを上下、刈取部をスイングし、固着や、カジリがなく、滑らかに動くか確認してください。
5. 電装ハーネスの損傷、接触不良がないか確認してください。
6. トラクタのタイヤ空気圧・フロントウェイトが適正か点検してください。
7. ナイフの減り具合を確認してください。
P.19 を参照し、必要に応じて交換してください。
8. 各部に前回作業時の草や異物の絡み、詰まりがないか確認してください。
9. 寒い時期は使用する前に暖気運転してください。
10. 装着後、一度格納して、トラクタへの干渉がないよう、必要に応じて上げ規制を行ってください。

際刈アタッチの着脱

装着の仕方

警告

- トラクタとアームの間に立たないでください。
- 必要なとき以外はエンジンを停止してください。
- 2人以上で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

注意

- 装着作業する時は平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所でおこなってください。
- 車速 1km/h 以下で前後進してください。

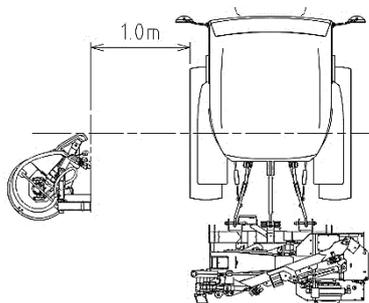
重要

- 接続後、カプラ、コネクタ(スイッチ)を軽く引っ張り、確実に接続されていることを確認してください。
- 油圧ホースをホースホルダへ通す際は、ホースがたるまないよう、アーム側へ引き出してください。
- 油圧カプラ、コネクタ(スイッチ)の接続部にゴミ、汚れがある場合は、きれいに取り除いてください。

1. 際刈アタッチのローターを左出しの状態にし、平らな地面に置いてください。
2. 際刈アタッチと平行になるよう、トラクタをアタッチの右側へ近づけ、停車してください。トラクタとアタッチの間隔は 1 m 程度を目安とし、停車位置を調整してください。

補足

- トラクタに近い位置で装着しようとする、アームが近接し、近接防止機能が作動します。トラクタ側へ近づける操作を受け付けず、装着できません。

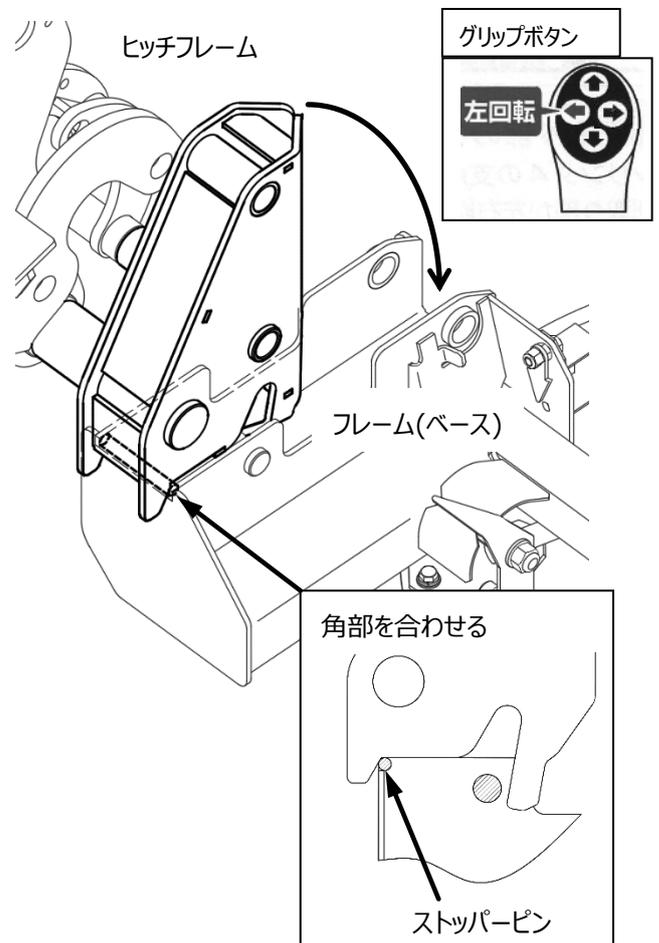


3. 本体、リモコンの電源を ON にし、トラクタ PTO を回してください。操作レバーを操作し、アーム先端を際刈アタッチのフレーム(ベース)の近くまで動かしてください。

補足

- PTO を定格で回すと、シリンダの伸縮が速く、位置調整が難しい場合があります。アタッチの近くまでアームを展開したら、アイドル近くまで回転数を下げると、調整がしやすくなります。

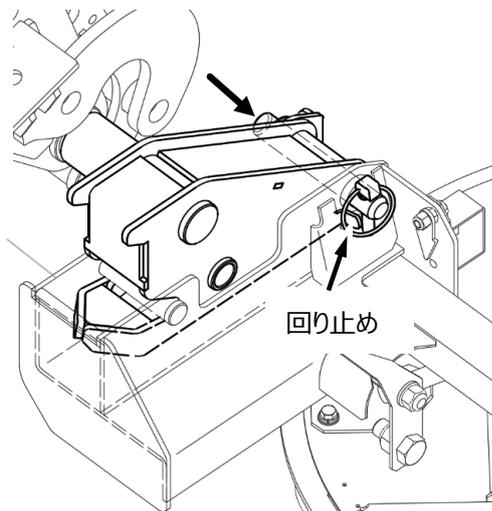
4. ブームマスター本体のヒッチフレームを垂直に立て、角部をフレーム(ベース)の縁にあるストッパーピンにあてがうようにアームを操作します。
5. 操作レバー上面のグリップボタン左を押し、ヒッチフレームがフレーム(ベース)底面に接するまで左回転させます。



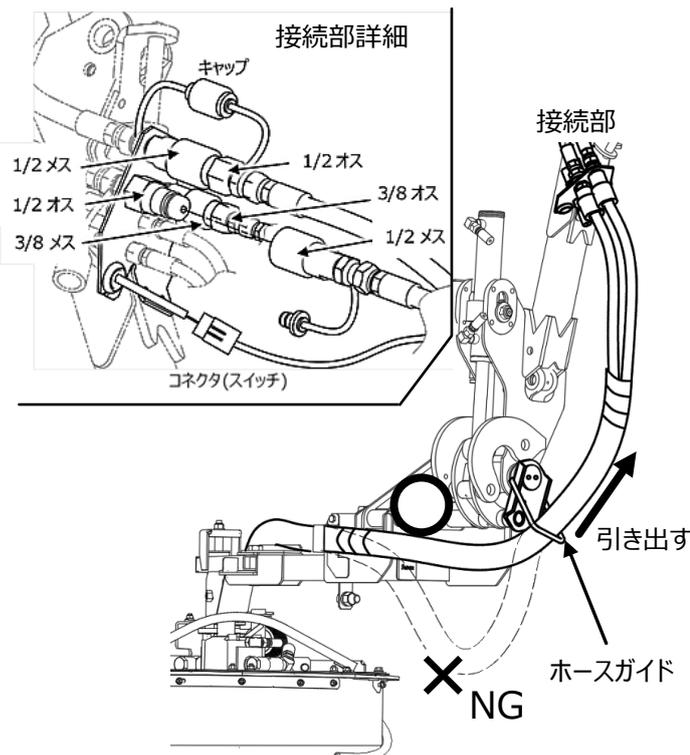
際刈アタッチの着脱

装着の仕方

6. アタッチピンを挿入し、リンチピンで抜け止めをしてください。アタッチピンが入りにくい場合は、アタッチ前側を上下に揺らしながら挿入してください。リンチピンのリングは回り止めに掛かるよう確実に戻してください。



7. 油圧ホースをヒッチフレーム後側のホースガイドに通して引き出します。その後、油圧カプラ、コネクタ（スイッチ）を接続します。油圧カプラは 1/2 が 2 組、3/8 が 1 組です。同じサイズ同士のオス・メスを接続してください。同様にキャップもすべて接続してください。

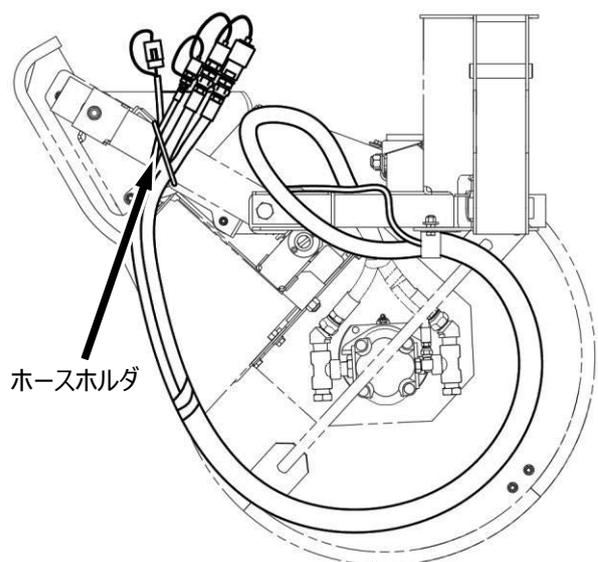


取り外し方

重要

- 取り外した油圧カプラ、コネクタスイッチに必ずキャップをはめてください。
- 取り外した油圧カプラ、コネクタ(スイッチ)が地面に付かないよう、ホースホルダに通してください。

アタッチの取り外しは装着時と逆の手順で行い、取り外した油圧カプラ、コネクタ(スイッチ)をホースホルダに通してください。



運転および作業の仕方

運転・操作の練習

⚠ 注意

- 安全に作業するため操作方法をよく理解してから作業してください
- 作業前には、必ず操作・運転の練習をしてください。

操作練習は、車速 1 km/h 以下の低速で、回避操作と、障害物に刈取部を接触させる練習を行ってください。

移動の仕方

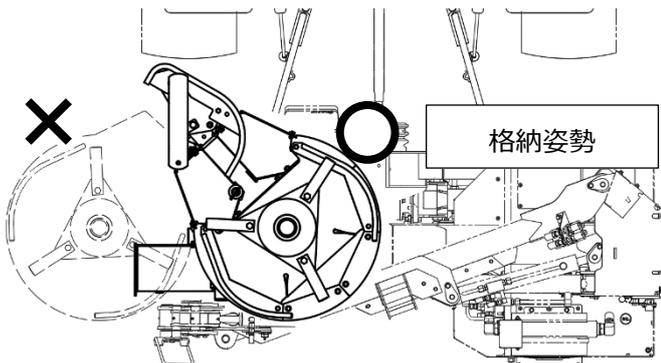
⚠ 警告

- 格納は、必ず刈取部を“左出し”に切り替えてから行ってください。
【守らないと】トラクタ側面からはみ出し、接触による死傷事故のおそれがあります。
- トラクタの運転は、安全のため必ずシートベルトを締めておこなって下さい。
- 急発進・急加速・高速走行・急制動・急旋回はしないでください。

重要

- 格納状態（アタッチが反転した状態）では、刈取部のスイングがロックされます。無理に突き出し方向を切り替えると、破損の原因になります。
- 移動時は必ず格納位置にして、トラクタの PTO クラッチを切ってから走行してください。

移動走行時は、作業部を格納位置まで移動してください。
格納は、刈取部を“左出し”に切り替えてから行ってください。



作業の仕方

⚠ 危険

- 安全のため必ずシートベルトを締めて作業をおこなってください。
- 回転部分には絶対に手や足を入れないでください。
- 回転部分に物が巻きついたときは、PTO の回転を止め、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。

⚠ 警告

- 作業前・作業中は、必ずまわりに人がいないことを確認し、作業してください。
【守らないと】飛散物をぶつけたりして、重大な事故を起こす恐れがあります。
- 斜面で作業をする場合、左右バランスが変わります。トラクタは、必ず平坦な所を走るようにしてください。
- 法面や路肩に近い所での作業は、作業前に地盤強度を確認のうえ、傾斜面から離れて走行してください。
【守らないと】路肩等がくずれ、転倒や横転するおそれがあります。
- 法面作業をする場合、低速で余裕をもって作業してください。
【守らないと】転落、横転の事故を起こし、死傷するおそれがあります。
- 周囲に人や動物がいないことを確認してから作業してください。
【守らないと】ディスクは高速で回転するため、石など硬いものは前後左右に 10メートル以上飛散する場合があります。
- 回転部が完全に停止するまで、アームを高い位置に持ち上げないでください。
【守らないと】飛散物をぶつけたりして、重大な事故を起こす恐れがあります。

運転および作業の仕方

作業の仕方

警告

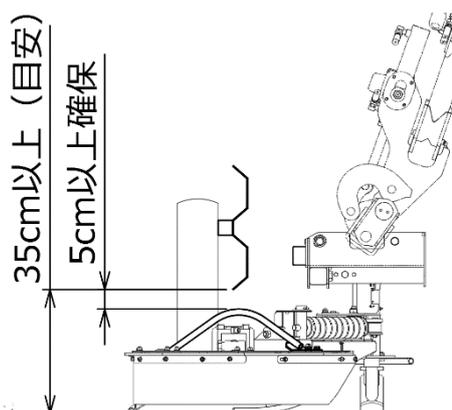
- 際刈作業時は、アタッチ部分だけでなく、本体アームと障害物の間隔、対向車や後続車等、周囲の状況に注意して作業してください。
【守らないと】障害物・機体の破損や、重大な事故につながる恐れがあります。

重要

- 草丈が高い場合は、地表の凹凸や段差・障害物がないか、危険なところがないかなどを必ず事前に確認してください。ある場合は回避もしくは作業しないでください。
- 下記のような条件では、機能を発揮できない、または、破損のおそれがあります。当てはまる場合は作業しないでください。
 - ・トラクタの走行路面が未舗装で凹凸が大きい
 - ・作業面の凹凸が大きい
 - ・足が 3cm 以上沈むような軟弱地
 - ・地盤が強固でない法面沿い
 - ・通行の妨害や、法面への接近が生じる狭い道路脇
 - ・手で押して根元がぐらつく程度の不安定な支柱に対しての際刈作業
- PTO 回転数は 750～1000rpm の範囲で作業してください。
- 草丈が 1m 以上の場合や、量が多い場合は、車速を下げ、アタッチを浮かせて二度刈りしてください。
【守らないと】油温上昇による、油圧機器の破損や、センサの誤動作につながる恐れがあります。



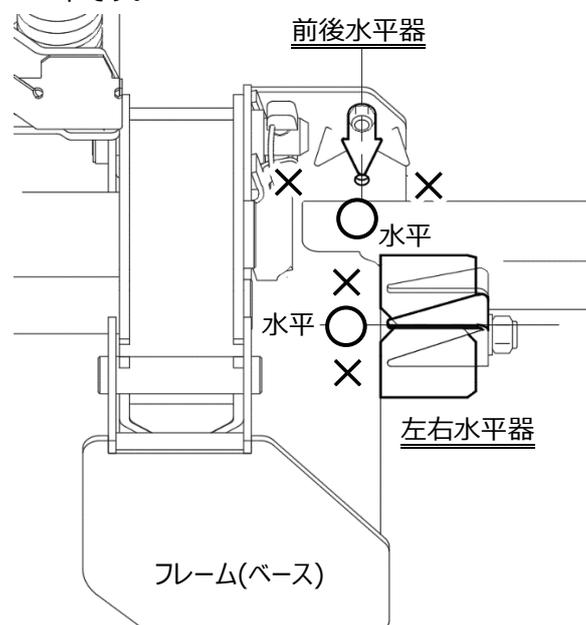
- ガードレールやフェンスなど、障害物の下に潜り込ませて作業する際、障害物とアタッチメントの間隔を 5cm 以上確保できない場所では作業しないでください。
【守らないと】障害物・機体の破損や、につながる恐れがあります。



1. 作業前に作業場所の状況を必ず確認してください。
2. フレーム(ベース)部にある左右、前後の水平器を見ながら、際刈アタッチを水平な状態で接地させてください。

補足

- “左右”は指示器の先端が三角状の切欠きの先端に向いたときが水平です。
- “前後”は指示器の先端が穴に向いたときが水平です。



運転および作業の仕方

作業の仕方

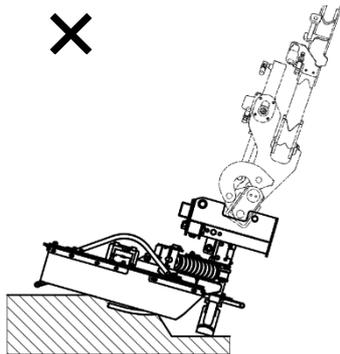
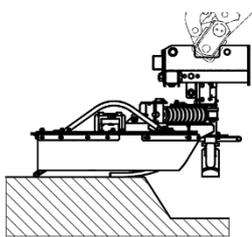
3. フローティング機能を使用する場合は、リモコンの“フローティングボタン”を押し、赤ランプが点灯した状態にします。(フローティング機能待機状態)

参考

安定して作業を行うには次の状態を確認します。

- 地面が平らである。
⇒地面に接地させた状態で、水平器が水平の位置になるようアタッチの角度を合わせて使用します。
- 段差や凹凸がある。
⇒フローティングスイッチを“OFF”し、水平器が水平の位置になるようアタッチの角度を合わせます。高さは、地面に接触しない高さにすることで刈り取り後の仕上がりが良くなります。

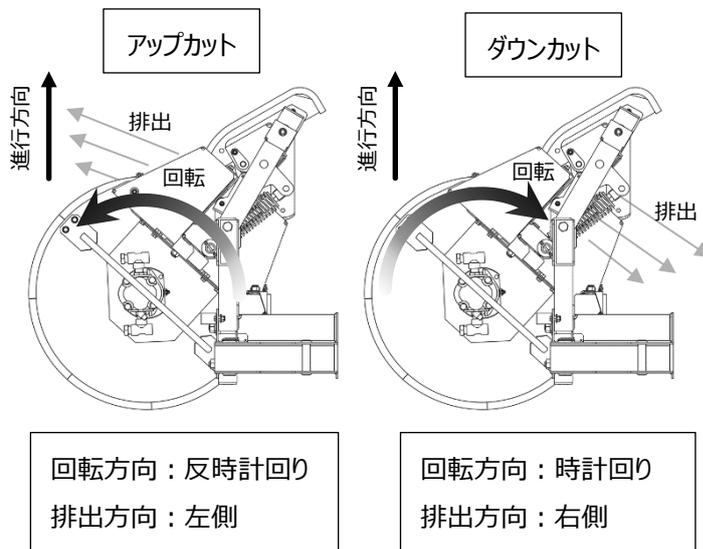
○ フローティング機能をOFFし、浮かせる



4. ローター停止スイッチを解除位置にし、ローター回転スイッチを“アップカット”へ切り替えてください。ディスクがモーター側から見て反時計回りに回転します。



スイッチ操作とディスクの回転、排出方向の関係



補足

- ローター回転スイッチを“ダウンカット”へ切り替えるとディスクがモーター側から見て時計回りに回転します。
 - ディスクに草が絡まったとき、“ダウンカット”で回転させると草がほぐれやすくなります。ただし、“アップカット”で回転している状態で回転スイッチを切り替えないでください。機体の破損につながります。
 - “ダウンカット”での草刈作業はトラクタ側への飛散が多くなり、危険ですので注意してください。
5. フローティング機能を使用する場合は、レバーを1回前に倒し、フローティングを開始します。PTOの回転を徐々に上げ、750～1000rpmの範囲で調整してください。
6. トラクタを前進させ、草刈を開始します。

運転および作業の仕方

作業の仕方

7. トラクタの作業速度は、0.5～2.0km/h で、草丈や、作業の状態を確認しながら調整してください。

補足

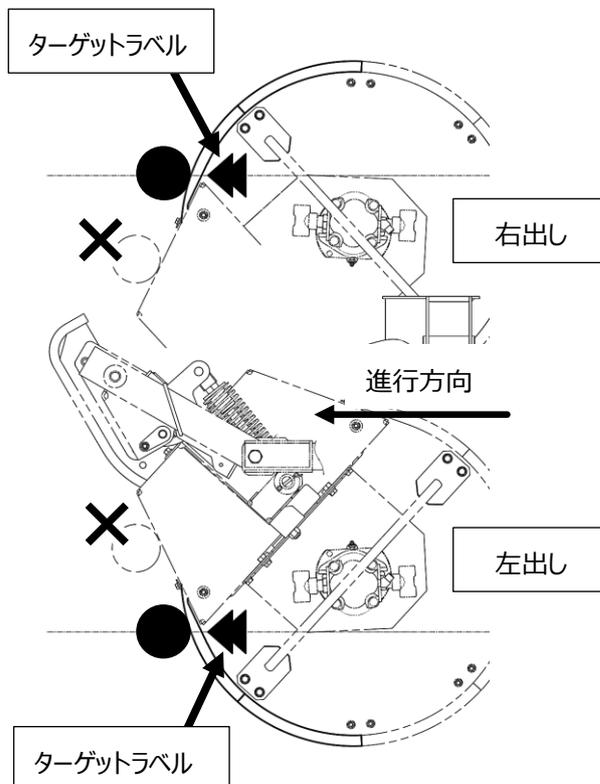
● 障害物周囲の際刈作業における車速の目安

草丈 / 草刈作業場所	作業速度の目安
草丈 50 cm未満	～ 2 km/h
草丈 50 cm以上 100 cm未満	～ 1 km/h
草丈 100 cm以上	～ 0.5 km/h
ガードレール越し等の 目視しにくい場所の草刈	～ 1.0 km/h

● 障害物が無く、平坦地での草刈作業の場合

草丈 / 草刈作業場所	作業速度の目安
草丈 30 cm未満	～ 3 km/h
草丈 30 cm以上 50 cm未満	～ 2 km/h
草丈 50 cm以上 100 cm未満	～ 1 km/h
草丈 100 cm以上	～ 0.5 km/h
ガードレール越し等の 目視しにくい場所の草刈	～ 1.0 km/h

8. 支柱周囲の際を刈るときは、刈取部のカバーにある“ターゲットラベル”の先端に支柱の中心を合わせてください。



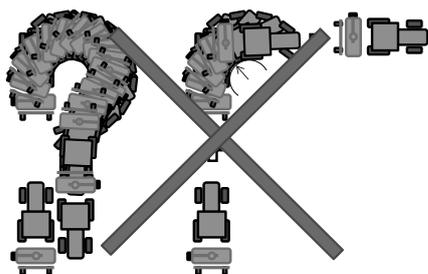
補足

- 作業開始直後は姿勢・位置の調整が多くなります。作業が安定するまで、車速 1.0 km/h 以下の低速で作業してください。
- ターゲットラベルより外側(白色樹脂プレートの範囲)に当たった場合、回避は可能ですが、支柱周囲の際残しが多くなります。
- ターゲットラベルより内側(カバー L/R)に当たった場合は、障害物がフレームに衝突します。位置が外れた場合は、刈取部を浮かせて後進し、再度位置を修正してください。
- 際刈作業中も機体の水平を維持するよう作業してください。刈取部が下がると、接地圧が上がり、アタッチのスイングアームが後退します。適切なオフセット量を維持できなくなりますので、回避時以外は、スイングアームが後退しないようロール角度、上下位置を調整してください。

運転および作業の仕方

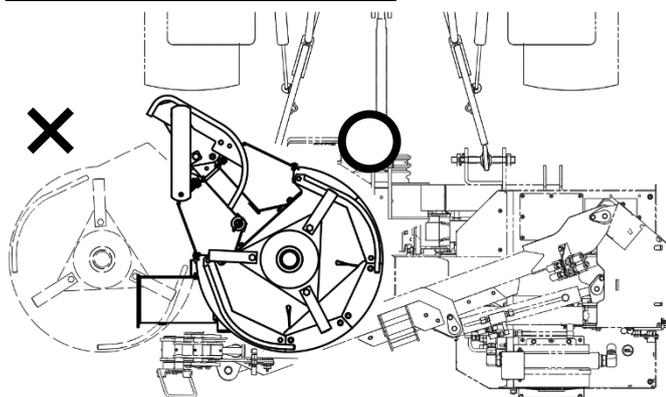
作業の仕方

9. アタッチを地面に着いたまま、急旋回(片ブレーキ旋回、倍速旋回)を行わないでください。急旋回した場合、アタッチメント、および本体の破損へつながります。
やむを得ず急旋回する際は、アームを操作して作業部を持ち上げてから旋回を行ってください。



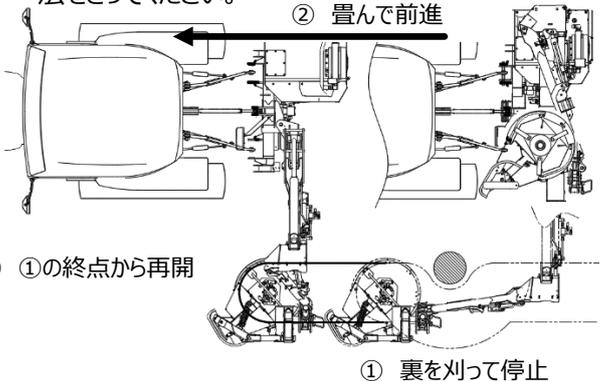
10. 草刈り作業走行を終了（又は中断）したら、ローター停止スイッチを押し、ローター回転スイッチを中立位置に戻してください。（ディスクの回転が停止します）
11. ディスクの回転が完全に停止したら、アームを持ち上げ、地面から離脱し、格納位置までアームを折り畳んでください。
12. 格納が完了したら、周囲の安全を確認し、移動走行してください。「移動の仕方」（P.13）を参照し、正しく格納した状態で移動してください。

格納状態を上から見た図



運転および作業の仕方

作業上の注意

1. ディスクの回転は、アタッチを地面に下ろしてスキッドセンサを接地させてから回転させてください。
2. PTO クラッチの接続は、エンジン回転数を必ず下げた状態で接続し、徐々に回転数を上げてください
3. 異音が発生した場合は、直ちに PTO クラッチを切り、エンジンを停止してから点検・処置してください。「トラブルの原因と処置方法 (P.22~24)」をお読みください。
4. 逆転 PTO では、使用できません。
5. 運転者が運転席を離れる時は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
6. モアの周辺は異物等が飛散しますので、人や建物などに被害を与える可能性があります危険です。
7. ロプス車で作業する場合は、安全のためにヘルメットや保護メガネを必ず装着してください。
8. キャビン車の場合は飛び石がガラス等を破損しないように、キャビンに金網とポリカーボネート板等で保護する対策をしてください。
9. 地面の凹凸が大きい場合はフローティング機能を“OFF”状態にして、あらかじめアタッチを浮かせて作業してください。
10. アーム前進位置での作業中にアタッチがトラクタに接近すると接触防止機能が作動し、ブザー警告とともにアームの動作を強制停止します。アーム停止位置まで接近したら、アームを後退させるか外に開き、安全な位置で作業してください。
11. 接触防止機能が作動するとアームを近づける方向への操作が無効となるため、ブザー警告を無視して作業を続けると、とっさの回避操作ができない場合があります。ブザーが鳴ったら、直ちに鳴らない位置までアタッチとの間隔を広げるよう調整してください。
12. 接触防止機能はセンサの故障等で正常動作できない場合があります。必ず目視で確認し、接触を回避してください。
13. 後進での草刈は出来ません
14. 刈り取り圃場面の状況や 草刈り状態が目視確認出来ない場所・位置での作業はしないでください。
15. トラクタに近接した位置での作業では、本体アームの関節部が外側に張り出します。電柱や、標識等への衝突に注意してください。
16. 障害物の裏側を刈る際は、障害物をアームがまたぐ格好となるため、背の高い障害物(標識、電柱等)はアームの下をくぐれずに衝突します。裏側まで刈れたら停止し、アームを畳んで障害物を回避するなどの方法をとってください。

② 畳んで前進

③ ①の終点から再開

① 裏を刈って停止
17. シャーボルトが切れたあとも押し続けた場合等、本体のブレーキバック機構が作動することがあります。本体の取り扱い説明書に従い復帰操作をしてください。
18. ディスクが回転している最中にローター回転スイッチを切り替えないでください。

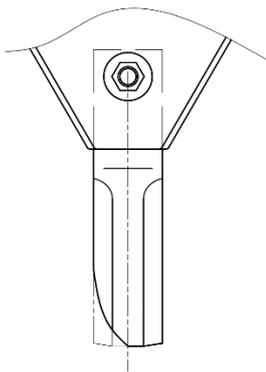
ナイフの交換

警告

- ナイフ交換時は、必ずPTOを切って、トラクタのエンジンを止めてください。
- 3点リンクが下がらないように、トラクタの油圧調整バルブを閉じて完全にロックしてください。また、作業機と地面の間には台を置くなどの落下防止対策をしてください。
- ナイフ組立後、必ずナイロンナットの締め忘れがないか確認してください。
【守らないと】
 - ・回転時ナイフが飛び出してケガをするおそれがあります。

1. ナイフの交換時期

ナイフが摩耗すると刈取り性能が低下します。下図のような摩耗状態になりましたらナイフを交換してください。ナイフの交換は1度に全数交換してください。機械破損の原因となります。

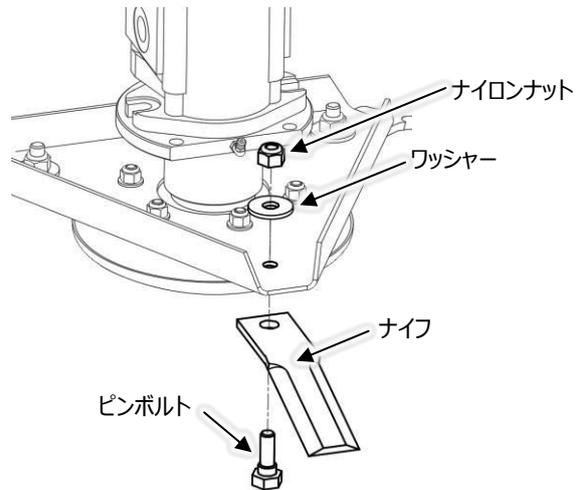


ナイフ先端が板の幅の半分程度まで摩耗したら交換時期です。

なお、ナイフは反転して使用できません。片側の刃の磨耗状態が図のようになったら交換してください

2. ナイフの組立手順

- 2-1. 右図のように、ディスクの下側から、ナイフを組み付けてください。
- 2-2. ワッシャー、ナイロンナットでピンボルトを締めこんだ後、ナイフがフリーに動くか確認してください。
(締め付けトルク 5.2 Nm)



作業シーズン中

- 作業終了後、水洗いをしてボルト、ナット、ピン類の緩みや脱落を確認し、ある場合は増し締め、補充をしてください。特に、フレーム部のシャーボルト、ナイフの取り付けボルトに緩みがないか確実に確認してください。
- 各部に注油をしてください。
- 雨ざらしにしたり、高圧水で洗浄したりしないでください。濡れた場合はよく乾燥させて、端子などに腐食がないか確認し、ある場合は除去や、部品交換を行ってください。

作業シーズン終了後

水洗い、乾燥、補修塗装、塗油などをおこない、破損部品、脱落部品がある場合は、早めに部品交換・修理をおこなってください。格納は、湿気・ほこりが少なく平坦で安全な場所に安定させて、保管してください。

保守管理について

グリース注油箇所

⚠ 警告

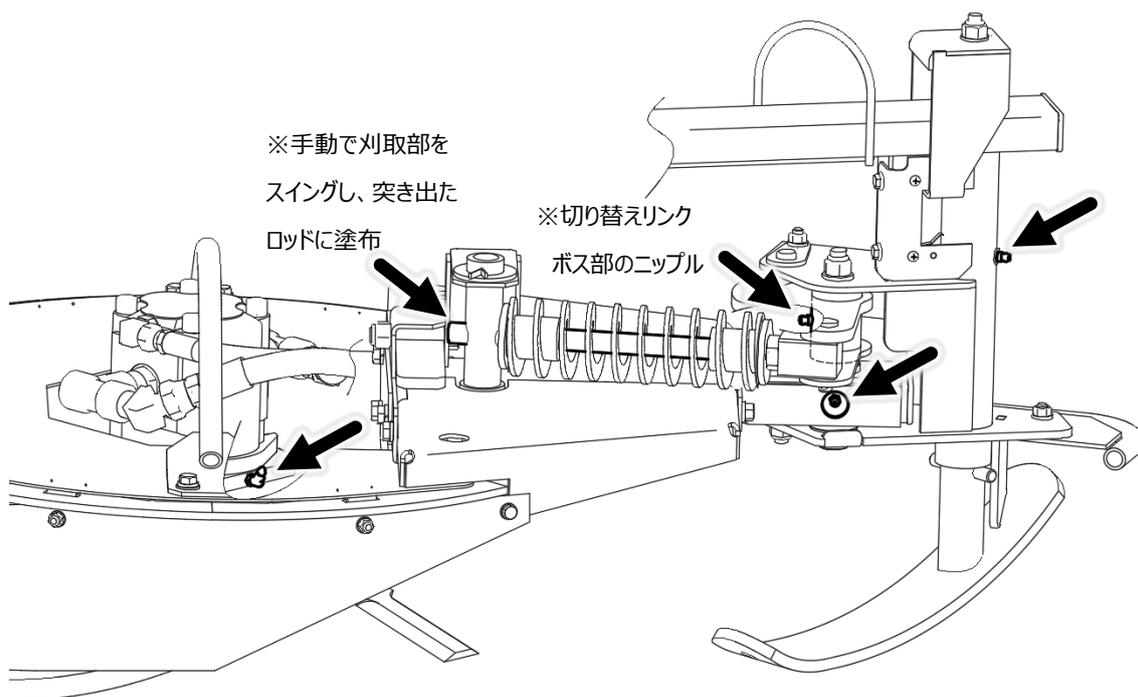
- グリース注油時は、必ず PTO を切って、トラクタのエンジンを止めてください。

【守らないと】

- ・回転体に巻き込まれ、傷害事故を引き起こします。
- ・機械にはさまれ、傷害事故を引き起こします。

重要

- 作業機の性能を発揮するため、すべての注油は作業ごと（8時間毎）に注油してください。
- 指定されたグリースを使用してください。十分な性能が発揮できなかったり、破損の原因になります。
⇒ リチウムグリース・・・工場出荷時：J Xエネルギー エピノックグリースA P（N）



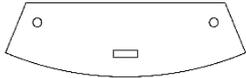
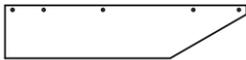
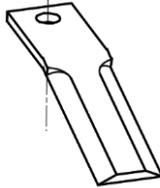
保守管理について

消耗部品一覧

重要

- 各部品において、純正部品以外の使用による不具合や破損は補償対象外となります。
- 下記一覧に記載していない部品が、破損、脱落、紛失した際は、お買い上げの販売店へ早急に注文・交換を依頼してください。

本製品は使用に当たり、消耗していく部品があります。作業前や作業終了後には各部品を確認し、交換目安より減っている、破損している場合は交換してください。

本誌記載名	交換目安	注文時品名	品番	個数/台
シャーボルトセット 	ボルト折損都度	ボルト	0101206025	1
		ヒラワッシャー	0175006000	2
		バネザガネ	0170206000	1
		ナイロونات	0158006000	1
樹脂プレート 	プレートの出代が 1 c m以下 (出荷時 2 c m)	ジュシプレート (サイド)	K8C1827000	6
ゴムカバー L 	ゴムの幅が 1 2 c m以下 (出荷時 1 4 c m)	フラップ L	K8C1851000	1
ゴムカバー R 		フラップ R	K8C1852000	1
ナイフ 	ナイフ先端が 板の幅の半分程度ま で摩耗(P.19 参照)	ハ	K131216000	3

トラブルの原因と処置方法

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
油圧ホース 接続金具	異常発熱	オイル量の不足	本体にオイルの補給	○	○
		オイルフィルターの目詰まり	本体のオイルフィルターの交換	×	○
	オイル漏れ	シールの損傷	シールテープの交換	○	○
		接続金具の緩み	増し締め	○	○
		油圧ホースの損傷	油圧ホースの交換	×	○
ディスク	異音発生	ベアリングのグリース切れ	ベアリングにグリース注油する	○	○
	刈取不良 振動が大きい	PTO 回転数不足	PTO 回転数 750～1000 まで上げる	○	○
		ナイフの摩耗	ナイフの交換	○	○
		油圧モーターの故障	油圧モーターの交換	×	○
		ディスクの破損	ディスクの交換	×	○
	回転しない	草、ゴミの絡み	草、ゴミを取り除く	○	○
		PTO が回転していない	PTO を回転させる	○	○
		油圧カプラの抜け	油圧カプラを差しなおす	○	○
		油圧モーターの故障	油圧モーターの交換	×	○
		カップリングの故障	カップリングの交換	×	○
スイングアーム	スイングしない、戻らない	ロッド（スプリング）のグリース切れ	ロッド(スプリング)にグリース塗布	○	○
		ロッド（スプリング）の異常磨耗によるかじり	ロッド（スプリング）の交換	×	○
		ロッド(スプリング)の曲損	ロッド（スプリング）の交換	×	○
スキッドセンサ	上下に動かない	スキッドセンサのグリース切れ	スキッドセンサ部にグリース注油	○	○
		パイプの隙間に異物噛みこみ	異物の除去	○	○
		スプリング(スキッド)のへたり	スプリング（スキッド）の交換	×	○
（フローティング） センサ部	フローティングが機能しない	フローティングスイッチが“OFF”になっている	フローティングスイッチを“ON”にする	○	○
		ローター停止スイッチが解除されていない	ローター停止スイッチを解除する	○	○
		コネクタ（スイッチ）が接続されていない	コネクタ（スイッチ）を接続しなおす	○	○
		近接防止機能の作動	トラクタからアタッチを離す	○	○

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
（フローティング） センサ部	フローティングが機能しない	センサスイッチの調整不良または故障	1) スキッドセンサが上がりきったときに上側のセンサスイッチが押されている 2) スキッドセンサが下がりきったときに下側のセンサスイッチが押されている 1)、2) となるようカバー(リミット)の位置を調整 故障の場合は交換	×	○
		アタッチ、本体のハーネス断線	ハーネスの交換	×	○
		スキッドセンサの破損	スキッドセンサの交換	×	○
		ステー(リミット)の破損	ステー(リミット)の交換	×	○
	フローティングスイッチを押すと勝手にアームが持ち上がる	スキッドセンサが上がったままになっている	異物が噛んでいる場合は除去	○	○
			破損の場合はスキッドセンサを交換	×	○
		センサ部の上側センサスイッチの故障(常時導通になっている)	センサスイッチの交換	×	○
		本体のプレーキバック負荷センサ故障(常時導通になっている、リーフスプリングの折損)または調整不良	フックが掛かっているときに、負荷センサスイッチが押されているか確認 故障の場合は交換	×	○
		本体の先端セーフティセンサの故障(常時導通になっている、リーフスプリングの折損)または調整不良	アタッチを浮かせた状態で、センサスイッチが押されているか確認 故障の場合は交換	×	○
	フローティング使用時、スキッドセンサが上がっているのに、自動で上がらない	PTO 回転数不足	PTO 回転数を 750~1000 回転まで上げる	○	○
		センサ部の上側センサスイッチの故障(常時非導通になっている、断線)	センサスイッチの交換	×	○
		アタッチ、本体のハーネス断線	ハーネス交換	×	○

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
（フローティング） センサ部	フローティング 使用時、スキッドセンサが下がっているのに、自動で下がらない	上げ操作によりフローティングモードが中断している	一度下げ操作をしてフローティングを再開する	○	○
		通信障害によりフローティングモードが中断している	一度下げ操作をしてフローティングを再開する。頻発する場合は、受信機の高さを調整。	○	○
		センサ部の下側センサスイッチの故障 (常時導通になっている、リーフスプリングの折損)	センサスイッチの交換	×	○
	フローティング 使用時、地面が平坦なのに、アームが勝手に上下動を繰り返す（チャタリング）	油温が低い	油温が上がるまで暖機運転する	○	○
		PTO 回転数過多	PTO 回転数を 750～1000 回転まで落とす	○	○
		センサ部の下側センサスイッチの故障 (常時非導通になっている、断線)	センサスイッチの交換	×	○
		アタッチ、本体のハーネス断線	ハーネス交換	×	○

主要諸元

名称	ブームマスターZ 専用 際刈アタッチ
型式	MSC50
全長(mm)	880
全巾(mm)	845
全高(mm)	500
刈幅(mm)	550 (ナイフ回転径)
重量(kg)	際刈りアタッチ単体 : 66 kg
作業速度(km/h)	0.5~2
刈高さ(mm)	最小 30 mm
ディスク回転数(rpm)	2150 (PTO750rpm)
PTO 回転数(rpm)	750~1000
作動油	VG32 相当
最高使用圧力(MPa)	20.6 MPa

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

購入日

年

月

日

型式

シリアル番号



株式会社

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

ササキコーポレーション

本社・工場 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111	FAX 0176-22-8607
製品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170	FAX 0176-25-3127
部品窓口 / 〒034-8618	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170	FAX 0176-25-3171
北東北営業所 / 〒034-0001	青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354	FAX 0176-23-9655
仙台営業所 / 〒989-1631	宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780	FAX 0224-58-7782
関東営業所 / 〒329-0201	栃木県小山市粟宮1241-9	TEL 0285-45-8911	FAX 0285-45-8910
新潟営業所 / 〒954-0051	新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810	FAX 0258-62-3160
岡山営業所 / 〒702-8002	岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508	FAX 086-274-9510

ZT00000002

(2202-K8C7510000)